

日本助産学会ニュースレター

巻頭言

周産期の死と助産師によるケア

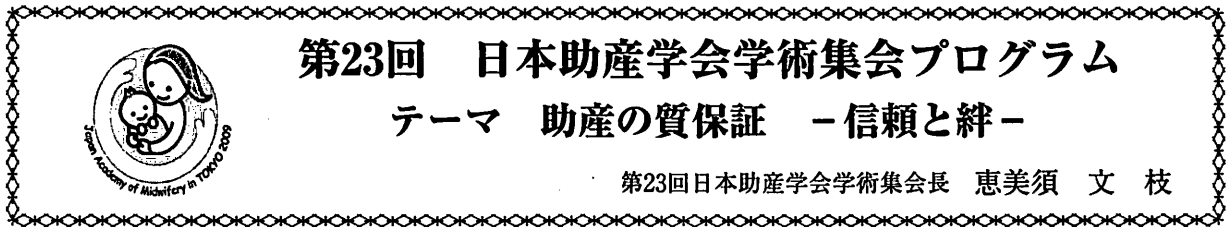
広島大学保健学研究科博士後期課程 岡永真由美

家族に待ち望まれ、元気に生まれるはずだった小さな命が、突然消えてしまう。両親にとって、これほど残酷で悲しい出来事はありません。欧米では、1970年代より、周産期の死に直面した両親の心身の影響について心理学分野での研究が始まりました。看護学的側面では、少し遅れて1980年代より、イギリスやアメリカ、オーストラリアにおいて対象理解を中心として研究が行われてきました。現在行われている周産期の死を体験した両親や家族へのケアは、これら欧米の研究結果をもとに発展してきました。2000年代に入って、これまで当たり前のように実施していた亡くなった赤ちゃんを抱くことや面会を勧めることと母親のPTSDの関連も明らかになっています。さらに、近年、我が国を含めたアジア地域での周産期の死にまつわる研究が増加傾向にありますが、文化や宗教的背景を踏まえたケアの議論には至っていません。

そこで、周産期に限定せず、文化的な悲嘆や死別に関する研究動向を探るために、この7月に第8回Grief and Bereavement国際学術集会（メルボルン）に参加しました。この学会の中心テーマは、成人～老年期の悲嘆や遺族ケアで、その一貫としてテロ（9.11）にまつわる縦断研究も紹介されました。残念ながら日本を含めたアジア地域の人々を対象とした発表は3演題のみでした。

学会では、メルボルン市内の病院勤務助産師（bereavement counselor兼務）やソーシャルワーカーと、周産期の死別に関わるケアについて情報交換ができました。多民族国家のオーストラリアならではの、スタッフ同士あるいは家族とのかかわりの難しさ、地域社会でのサポートグループが多すぎることの弊害など、様々な課題への視野を広げる機会になりました。周産期の死を体験した女性や家族の思いを、どのように理解するのか、どういうケアの選択肢があるのか、『ケアへの正解』を求める気持ちをどこかに持ち続けてしまうのは、日本の助産師だけではなく、国境を越えた助産師の悩みでもあったのです。

近年、周産期の死を経験した女性や家族への入院中のケアは、基準を設ける施設も増えてきました。その一方、継続ケアへの重要性を感じても、病院内や地域社会で活用できる資源には限界があることが現状です。そこで、今こそ、継続ケアへの限界に挑戦するためには、施設助産師としての役割を改めて考える時期ではないでしょうか。自分たちの施設で入院中に、最大限できるケアとは何か、継続ケアとは、いつまでのどんなケアを示すのかを話しあうことから始まると思います。誕生へのケアは、生きて生まれた赤ちゃんも、亡くなって生まれる赤ちゃんにも共通であり、母親と家族への関わりも、応用できるケアの視点もあると思います。一つ一つのケアを通して「生まれること、死ぬこと」を考え、スタッフ同士で大切に振り返ることが、周産期の死を体験した女性や家族へのケアの第一歩となると思います。



第23回 日本助産学会学術集会プログラム

テーマ 助産の質保証 - 信頼と絆 -

第23回日本助産学会学術集会長 恵美須 文 枝

会 期：2009年3月21日（土）～22日（日）

会 場：タワーホール船堀 〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1

会 長：恵美須文枝（母子保健研修センター助産師学校教務主任・日本助産評価機構理事長・
首都大学東京名誉教授）

大会URL：http://jam2009.umin.jp/

プログラム（予定）

会長講演 助産の質の評価－信頼と絆－

恵美須文枝（母子保健研修センター助産師学校）

基調講演 女性の人権と命を守る専門職の役割（仮）

高岡 香（保良・高岡弁護士事務所）

公開講演 産婦人科医療の再構築と専門職の役割（仮）

岡井 崇（昭和大学医学部産婦人科教授）

招聘講演 新しい助産師像を描いて

日野原 重明（聖路加国際病院名誉院長）

特別講演 女性・母・娘、そしてジャズシンガーとして生きる（仮）

綾戸 智絵（ジャズシンガー）

シンポジウムⅠ 助産師が担ってきた役割とこれから担うべき役割

－助産師に裁量権について考える－

座長 福井トシ子ほか

シンポジウムⅡ 医療連携の質を高めるには

座長 毛利多恵子ほか

その他 ワークショップ スポンサーセミナー 一般演題（口演・ポスター）

自由集会等

参加登録

学 術 集 会 登 録 費		事前登録 2008. 8. 1 (金)～2009. 1. 30(金)	当日登録
登録費	会 員	10,000円	12,000円
	非会員（専門職）	11,000円	15,000円
	非会員（専門職以外）	-	5,000円
	学 生（大学院生を除く）	4,000円	5,000円
懇親会 (会場：タワーホール船堀2階 瑞雲)	会員・非会員・学生	7,000円	-

*登録方法詳細につきましては、第23回学術集会ホームページをご参照ください。

学術集会問い合わせ先

第23回 日本助産学会学術集会運営事務局 株式会社ICSコンベンションデザイン内

〒101-8449 東京都千代田区神田錦町3-24 住友商事神保町ビル

電話：03-3219-3541 FAX：03-3292-1811 E-mail：jam23@ics-inc.co.jp

2009年度 日本助産学会 研究助成公募

学術振興委員会理事 江藤宏美

応募締切日：2008年11月10日（月）必着

日本助産学会では、本学会の会則に基づき、助産学に関する研究を推進するために研究費用の一部を助成し、助産学の発展をはかり、わが国の母子保健に寄与することを目的に研究助成を行っております。

2009年度の研究助成応募は、以下の要領にしたがって申請して下さい。

応募資格

- * 日本助産学会員として3年以上加入している会員であること
- * 共同研究者も会員であること（加入年数は問わない）

応募方法

日本助産学会ホームページ (<http://square.umin.ac.jp/jam/>)、「研究助成案内」から【申請書】をダウンロードし、必要事項を記入し、事務局まで送付してください。

研究課題

下記、委託研究と学術奨励研究について、それぞれ2件程度採択します。

1) 委託研究

本学会が推進協力団体として登録している「健やか親子21」より課題1・2*に関連した研究、また、時代や社会の要請度・緊急度が高く、研究成果の社会的・学術的意義が大きい研究等。

- * 課題1 「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」
 - 課題2 「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」
- 助成額は、50万円以内／1件。

2) 学術奨励研究

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的研究等。
助成額は、30万円以内／1件。

応募締切日

2008年11月10日（月）必着

問合せ先

日本助産学会事務局
〒111-0054 東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階
Fax. 03-3866-3032
E-mail : jam1987@ninus.ocn.ne.jp

詳細は、日本助産学会ホームページをご覧ください。
多数の応募をお待ちしています！

論文投稿者へのお願い

日本助産学会編集委員会 2008年7月4日

投稿する際は以下の事項についてご確認をお願いします。**投稿資格について**

日本助産学会誌投稿規程では、投稿資格について、投稿者および共著者ともに全て学会員であることと定めています。

査読者の選定について

投稿者が査読をしてもらいたいと希望する査読者名を記入できるようになっております。編集委員会では、できるだけ投稿者の希望に添って査読者（2名）を選定していきたいと考えておりますが、諸事情を考慮し、最終的な決定は編集委員会で行います。そのため必ずしも希望通りの査読者とはならない場合がありますが、ご了承下さい。

査読経過中の留意点

日本助産学会では、投稿者には査読者の氏名を明らかにしております。これによって、査読結果の判定および意見の出処に透明性をもたせるとともに、投稿者に理解されやすい判定結果や査読意見に留意でき、論文が洗練され質の向上につながれると考えております。しかし、投稿者名は査読者にはブラインドされます。また、査読者同士もその氏名はブラインドされ、査読が行われます。

投稿者から査読者に対して、決して個人的なコンタクトはとらないで下さい。

査読意見について何か不明な点がある場合には、編集委員会にお尋ね下さい。

なお、投稿者が、査読者へ個人的なコンタクトをとる、査読者の査読結果に対する誹謗・中傷を行うなどの行動が明らかとなった場合には、査読を中止する、今後の投稿を受け付けられないなどの対応をとらせていただきますことをご承知おき下さい。

***** ICM募金のお願い *****

本学会では下記の募金を受付けています。会員の皆様のご協力をお待ちしています。

*** ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ（国際基金）の募金について**

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。一口2,000円です。

振替口座番号：00190-8-710931

加入者名：日本助産学会国際基金

*** セーフマザーフード基金の募金について**

世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。一口1,000円です。

振替口座番号：00240-8-6818

加入者名：日本助産学会ICMセーフマザーフード基金

今回は川原淳子様、第17回愛知県集会実行委員会様より募金にご協力いただき、ありがとうございました。

引き続き 皆様の暖かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学会運営および事業推進組織表

任期2008年4月1日～2011年3月31日

学会運営および事業推進組織表に一部修正がありましたので下記の通りお知らせいたします。

担当・委員会	事業・業務内容	担当理事○委員長	幹事・委員の氏名(所属)
総括		堀内成子	
庶務 健やか親子21	会議準備、事務所・受信文書管理 健やか親子21関連	砥石 和子	山本 智美 (聖母病院)
会則・渉外	会則等の整備、改正案作成 外部との連絡交渉・組織強化		
会計	収支・資産管理、会計執行・予算 案立案	高田 昌代	藤井ひろみ (神戸市看護大学)
広報	ニュースレター発行 「国際助産師の日」ポスター	横尾 京子	倉光 広子 (広島大学大学院保健学研究科) 中込さと子 (広島大学大学院保健学研究科)
編集	学会誌発行	島田 啓子	安達久美子 (首都大学東京) 有森 直子 (聖路加看護大学) 木村 千里 (日本赤十字看護大学) 島田真理恵 (聖母大学) 春名めぐみ (東京大学) 谷津 裕子 (日本赤十字看護大学)
表彰関連選考		○平澤美恵子 島田 啓子 松岡 恵 毛利多恵子	北川真理子 (名古屋市立大学看護学部) 高橋 弘子 (愛知県立看護大学)
国際	ICMと連携、学会誌・ニュース レターを通じ国際情報の提供、そ の他国際関連事項	加納 尚美	石川 紀子 (愛育病院) 大石 時子 (天使大学大学院助産研究科) 小黒 道子 (聖路加看護大学) 山本 令子 (れいこ助産所)
国際助産協働		毛利多恵子	五味 麻美 (慶応義塾大学) 嶋澤 恭子 (神戸市看護大学) 橋本麻由美 (国立国際医療センター) 早瀬 麻子 (神戸市看護大学)
学術会議	日本学術会議関連事項 学術講演会開催	○近藤 潤子 堀内 成子	
学術振興	研究の委託、ワークショップの開 催	○江藤 宏美 堀内 成子	浅井 宏美 (首都大学東京健康福祉学部) 片岡弥恵子 (聖路加看護大学) 田所由利子 (慶応義塾大学看護医療学部) 八重ゆかり (東京大学)
裁量権拡大検討	助産ガイドラインの作成	○加納 尚美 江藤 宏美 堀内 成子 毛利多恵子	
業務検討		○松岡 恵 砥石 和子 平澤美恵子 福井トシ子	神谷 整子 (みずき助産院) 窪田 裕子 (渋川助産院) 福島 恭子 (愛育病院) 村上 睦子 (日本赤十字看護大学)
スキルアップ研修		○安藤 広子 恵美須文枝	木下 千鶴 (杏林大学医学部付属病院) 斉藤有希江 (杏林大学医学部付属病院) 谷口 千絵 (日本赤十字看護大学大学院)
看護系学会等社会 保険連合会		○松岡 恵 福井トシ子	
看護系学会協議会	総会・シンポジウム		
助産師団体連絡会	年2回(9・3月)会議開催		
監事	会計・資産管理	青木 康子 竹内美恵子	
学術集会	第23回学術集會長 恵美須文枝 (2008.4～2009.3) 第24回学術集會長 加納 尚美 (2009.4～2010.3)		東京 茨城

事務局からのお知らせ

変更届および退会届について

住所・姓・所属先・送付先の変更や退会希望の場合は、FAX・はがき・E-mail添付等で必ずご連絡下さい。

書式は問いません。変更届（退会届）と表示し会員Noと氏名を明記し変更内容（または退会希望年度）を記入してください。日本助産学会ホームページ（<http://square.umin.ac.jp/jam/>）から書式をダウンロードしてのご利用も可能です。

*退会のご注意

- ・次年度（平成21年度）から退会希望の方は、必ず1月末までに退会をお知らせ下さい。ご連絡がない場合は会員継続とみなし年会費をお納めいただくことになります。
- ・口座引落ご利用の方は、引き落とし解約手続きに時間がかかりますので退会についてはお早めにご連絡下さい。
- ・1月末までに退会連絡がないまま引き落とされた会費につきましては、会則第7条（三）にありますようにお返しできません。十分にご理解いただきご協力の程よろしくお願い致します。

*変更について

- ・住所・姓・所属先・送付先の変更があった場合はその都度必ずお早めにお知らせ下さい。変更後の連絡がないと、当学会からの緒情報をお届けすることができませんので、学会誌等が届かない場合は事務局までご連絡下さい。
- ・口座引落ご利用の方で口座変更（姓変更（名義人名変更）・口座番号変更・取引金融機関変更等）の場合は、再登録するか現登録データ削除の必要がありますので必ず1月末までにご連絡下さい。（連絡がないとデータを削除できず「取引なしエラー」になり手数料（助産学会負担）だけが引かれてしまいますので必ずお知らせ下さい）

学会誌バックナンバー無料化と書籍販売のお知らせ

*日本助産学会誌バックナンバー第1～16巻を無料、第17～20巻を有料（1部2,500円）で配布しています。

*「日本助産学会委託研究・学術奨励金助成研究報告書（第3号）」 1部500円

*「母子に優しいケアを実現するために－口演集－」 1部100円

*講演会「女性とともにつくるお産と政策」ニュージーランド助産システム 1部1,000円

それぞれ送料分は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。申込み方法は、日本助産学会ホームページ（<http://square.umin.ac.jp/jam/>）から申込書をダウンロードしてFAX（03-3866-3032）か、E-mail（jam1987@ninus.ocn.ne.jp）に添付送信してください。

会費納入について

日本助産学会は皆様の会費により運営しています。円滑な事業推進のため会費納入は年度前払いでお願いいたします。

12月に登録状況および次年度会費納入のお知らせを送付しますので、納入方法が口座引落の方は変更等ありましたら1月末までにご連絡下さい。また、口座残高のご確認をお願いします。振込の方は、3月末までの納入をお願いします。

会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞ります。また、学会誌への投稿、研究助成の応募、スキルアップ研修参加、学術集会演題応募等は、会費納入済が資格条件です。お早めの会費納入をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ等がありましたら下記事務局にご連絡下さい。

《連絡先》 日本助産学会事務局 〒111-0054 東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階
Tel&Fax：03-3866-3032 E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp <http://square.umin.ac.jp/jam/>